

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業教育の持つポテンシャルを最大限に活かし、生徒一人ひとりの夢をカタチにできる、“感動とトキメキの学園”をめざす。

1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度を育む。

2 生命と人権、自然と環境を大切にする態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。

3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。

4 様々な機関等と連携した広がりのある教育の構築により、学校の有する施設・設備や生徒の活動成果等を府民に還元するなど、農業教育のセンター的機能を果たす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路保障

（1）個に応じた『わかる！』『できる！』が実感できる授業を実践する。

☆英語において習熟度別授業を効果的に活用し、わかる授業を実践する。

※学校教育自己診断（生徒）で「少人数展開授業は授業内容の理解に効果的」（R03：88.7% R04：84.7 R05:89.7）を前年度比で増加させる。

令和8年度には、85%以上を維持する。

（2）自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人一人が「学ぼうとする意欲」を醸成し、「学ぶ力」の定着につなげる。

☆予習・復習など、授業以外の学習を充実させる。また、資格取得を推進し、学ぶ意欲につなげる。

※授業アンケートで「必要な予習や復習ができている」（R03：3.02 R04：2.97 R05：3.23）の平均値3.0以上をめざすとともに、令和8年度も維持する。

（3）生徒の基礎・基本の学力を定着させる。

☆「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、その結果を効果的に活用することで基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。

（4）日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。

○学校紹介就職100%、生命総合産業への就職者数、国公立を含めた大学の農業・食品関連の学部等、専門学校への進学者数を維持する。

※農業関連企業への就職者数（R03：18名、R04：18名 R05：17名）

農業関連学部への進学者数（R03：34名、R04：31名 R05：47名）

2 農業教育を基盤としたチャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」の育成

（1）SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会に参画し貢献する意識を醸成する。

○地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、生徒の意欲を高める。

※学校農業クラブの各大会での上位入賞をめざす。

○アグリマイスター顕彰制度を活用するとともに、進学・就職等の進路実現に生かせる資格取得を推進する。

※アグリマイスター認定者の前年度比増をめざす。

○GAP（農業生産工程管理）教育を推進し、生産物の高付加価値化により「農芸高校ブランド」を創出する。

☆地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。

※令和8年度に新たな「農芸高校ブランド」を創出するとともに、農業の6次産業化を推進する。

（2）チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。

☆新たな評価方法（3観点別学習状況評価）も効果的に活用し、フィードバックを通して、育成を図る。

3 規律・規範の確立と豊かな心の育成

（1）自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。

○教職員が一丸となり欠席、遅刻、服装、頭髪、登下校時のマナーなどの指導を徹底する。

（2）職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。

☆いじめ、教育相談や支援教育に係る職員研修を行い、教育相談及び支援教育について組織体制の運用を進める。

○生徒実態調査結果を分析し、生徒指導全般に活用するとともに一人一人の生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。

4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上

（1）「授業アンケート（生徒による評価）」などを活用し、振り返ることで教員の授業研究・授業力向上を図る。

○「授業アンケート」結果や教員相互の授業見学により、各教科で組織的な授業研究・改善を図る。

（2）臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。

☆毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各自が働き方を見直す。

○学習支援クラウドサービス、校内ネットワーク、校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。

（3）学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築する。

○本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。

5 地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信

（1）オール大阪の農業教育ネットワーク（行政（環境農林関連）、大学、企業、農家、農事法人、教委等）の活用を進める。

○学校資産を活用し、地域と交流し、生産物販売、見学受入、イベント参加協力等の学校内外での学びにより、生徒の自己有用感を育成する。

※対外的な交流の機会を可能な限り模索する。

（2）府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。

○中学校訪問や体験入学会、学校説明会、学校HPの随時更新、報道提供等により農芸高校の魅力を発信する。

※将来、本校を志望する小学生、中学生等へ本校の魅力を提供する機会を設ける。

6 防災教育の充実と安全・安心な教育環境の確保

（1）学校安全計画の見直しと実践的な避難訓練を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年1月実施分〕	学校運営協議会からの意見
学校教育自己診断結果（％は肯定率）	第1回学校運営協議会 【令和6年7月12日（金）】

【生徒】 <評価の高い項目>90%以上 「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」93.6%、「農芸高校で良き友人に恵まれたと思う。」92.9%、「先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている。」92.7%、「学習の評価は、テストの得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている。」92.2%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」92.2% ※他7項目で90%以上の肯定率（心と体の配慮、進路情報、人権、いじめ等の項目） <評価の低い項目>80%未満 ・「授業（座学）はわかりやすく楽しい。」77.2%、「農芸高校では、生徒会活動が盛んである。」75.0%、「農芸高校は、放課後等のクラブ活動が充実している。」66.2% 【生徒分析】 昨年同様、現3年生の全体の肯定率が他学年の評価と比べ低い傾向にあるが、生徒は学校生活においての満足度は87.7%と高く。特にLGHの指定を受けていることもあり、1人1台端末の活用についても非常に高い結果となっている。ICTの活用で授業改善が進んだと考えられる。教育相談についての評価は教育相談体制の見直しにより「学校は教育相談（カウンセリング）の体制が確立している。」という質問に体制88.7%の肯定率となった。低い項目としては、生徒会（クラブ活動）の充実が必要であるが、放課後の実習があるため、生徒会クラブの勧誘などを積極的に行う必要がある。 【保護者】 <評価の高い項目>90%以上の項目 ・「農芸高校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている。」94.2%、「学校は、子どもに生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている。」94.2%、「先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている。」92.9%、「生徒の学習の評価は、適切・公平に行われている。」92.6%、「授業中や放課後に、けがや体調が悪くなった時など、学校は適切に処置をしてくれる。」92.3%、「農芸高校は、保護者の願いに応えている。」91.7%、「学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。」91.1%、「体育祭、農芸祭などの学校行事は、みんなが積極的に参加できるよう工夫されている。」91.1% <低い項目>80%未満 ・農芸高校は、放課後等のクラブ活動が充実している。」56.3%、子どもは、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。」76.0%、学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。」76.9%、英検や漢検などの資格取得や農業関係の検定合格に向けた取り組みが行われている。」79.1% 【分析】 保護者全般の満足度は高く、学習評価、学校生活、教育方針に理解を示していると感ぜられる。働き方改革のため電話の応答について時間外は対応しないようにした事により、意思疎通の部分で低い評価となっているが、保護者サイトの活用促進と理解を深めたことにより、令和5年度は77.7%であったが令和6年度は81.3%となった。今後、放課後のクラブ活動や授業改善に取り組む座学部分での授業改善に取り組む必要がある。施設設備面においても老朽化が進んでいることから更新も必要である。 【教員】 <高い項目>90%以上 ・「農芸高校の教員は、常に自己研鑽を積み、自らの教育力向上に努めている。」93.2%、農芸高校の教員は、参加体験型の学習やグループ学習、思考力重視の問題解決型学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を図っている。」97.7%、「農芸高校の教員は、生徒の悩みや相談に親身になって応じている。」97.7%、「学校は、授業中や放課後に、生徒のケガや体調が悪くなった時など、適切に処置をしている。」93.2%、「学校は薬物乱用防止や性感染症予防の啓発など、生徒の心と体の健康に配慮している。」93.2%、「コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。」93.2% ※他3項目で90%以上の肯定率（保護者の願い、授業改善、きめ細かな指導の項目） <低い項目>50%未満 ・「学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。」31.8%、「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。」36.4%、職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。」40.9%、「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。」40.9%、「教員の間で、授業方法等	(1)令和6年度 学校経営計画及び学校評価について 【主な意見】 ・本校でも広報について悩んでいる、生徒目線の様々な発信をしているが、観てほしい人に届いているのかというところが懸念点である。 ・広報について、区と一緒にやってくれていることは、区でも取り上げさせていただきたい。コロナの影響が様々なところにでていると感じる。 ・高校進学について、教員の意見が大きいと実感している。中高の教員間の連携も大事。複数の高校にきてもらってシンポジウムをしたこともある。SNSの発信をし続けることが大切だと感じている。 ・生徒の関心は動画配信サイトである。テレビや新聞よりもSNSなどのメディアを活用することで中学生の目にも届くのではないか。 ・社会は区切りがあるが、テレビと違い、動画配信サイトには区切りがなく、止められることを受け入れられない子が増えている。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している。 ・農芸高校の動画配信サイトなどを見せてもらっている。動物との関わりについては、厳しい意見をもらうことがあると思うが、生徒たちは実体験をしているため、その経験を糧に、意見を受け入れると同時に、自分の実体験に誇りを持って欲しいと思う。施設・設備が老朽化し、生徒の学びや思いが形にできないのは寂しいので、学びが深まる環境作りをがんばってほしい。 ・バスの遅延の対応をもう少し緩くしてほしい。事故にもつながりかねないので検討してほしい。 ・農芸祭の入場緩和をしていただきたい。友人等を招待できるようにすると、そこから兄弟等に情報が回って学校のPRになるのではないか。 (2)教科書採択について ・異議なし (3)その他 第2回学校運営協議会 【令和6年12月6日（金）】 (1) R6年度学校経営計画の進捗状況について (2) 第1回授業アンケートについて ・毎年数学が低い数値が出ており、評価の低い先生には改善は指導していると思うが、他の学校と同等のレベルとなるように措置をお願いしたい。 (3) 今年度の農芸高校の取り組みについて ・ICT機器の更新で、今後パソコンを持ち帰って仕事をするのではないかと、時間外が増える事のないように注意。公立高校の定員割れの心配している。小中学校とコラボレーションすることで農業に興味を持つ生徒も生まれるのではないかと。 ・原材料費が上がりどの学科も予算がひっ迫しているので心配している。クラウドファンディングとかできないのか。 ・PTA広報誌のデジタル化などで予算を削減し、何か支援できたらと考えている。 ・110周年を迎える農芸高校でここでしかできない事は何か。予算が厳しい中、農業高校として何をアピールできるのかを考えている。農芸高校の生産物を大阪産（おおさかもん）に登録するなど、様々な支援を考えている。 (4) その他 第3回学校運営協議会 【令和7年2月14日（金）実施予定】 (1) 令和6年度授業アンケート結果について ・ICT活用について、具体的にどのように活用しているのか。 ・ICT活用について。グーグルクラスルームを活用している。教科科目ごとにクラスルームを作成している。授業内容を掲示したり、小テストを実施したりできる。また、長欠者とmeetをつないで授業に参加してもらおうといったこともできる。先生によって様々な活用方法がある。 (2) 学校教育自己診断結果について (3) 令和7年度学校経営計画・令和6年度評価について (4) 今年度の農芸高校の取り組みについて ・農業系の学校は放課後実習があるため、生徒会クラブに関する質問自体を変更してもよいのではないかと。生徒会クラブに対して生徒のニーズがあるのかも知りたい。授業アンケートの結果について、教科農業の科目の数値が高いので、自信をもっていいのではないかと。 ・コミュニケーション能力の低下は、就職、就農する上で必要なため、危惧している。農業クラブの活性化を今後もがんばってほしい。 ・通信教育について、学校に登校できない生徒に対して、学習の保障ができていいのはよいことだと感じた。登校できない生徒さんにとっても登校できるきっかけの一つになるのではないかと。 ・農場の経費については大変だと察する。収益だけでなく、命の大切さを学ぶ教育も大切にしている、それが教育庁に伝わればと思う。 ・家庭内でスマホを触っていて家族とのコミュニケーションが減っていることもあると感じる。学校から家庭に伝えることもよいのではないかと感じた。学校の状況を父母はあまり分からないので、学校から伝えてもらえると、意識してもらえるのではないかと。入学式などで現状をお伝えしていただいてもいいのではないかと。
--	--

について検討する機会を積極的に持っている。」47.7%、「各科や各分掌、各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」47.7% 【分析】 教員は、授業改善に熱心に取り組んでおり、授業アンケートの結果からもICT の活用・グループ学習を取り入れた授業などが多く行われていることから評価が高いと思われる。教育相談についてそれぞれで相談に乗っていることから、生徒・教員双方の評価が高い。施設設備面の改善、研修成果の報告、会議での情報交換、学年分掌の連携、授業見学など次年度に向けて改善していく必要がある。人事面においても講師の増加などにより様々な影響がある。		
---	--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路保障	(1)個に応じた『わかる!』『できる!』が実感できる授業を実践する。 (2)自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの「学ぶ力」を育成する。 (3)生徒の基礎・基本の学力を定着させる。 (4)日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。	(1) ア 英語の習熟度別授業や大学進学希望者向けの科目について、常に検証し指導方法等の改善を図る。 イ 学年を中心に考查前の放課後補習を定着させる (2) ア 各教科で宿題や課題を課すなど、授業以外の学習を習慣化させる。 イ 普通教科に関連する資格・検定（漢検、数検、英検等）の受検を勧める。 (3) ア 「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。 (4) ア キャリア形成の視点から教育活動全体を捉えて構築したキャリア教育計画を継続する。 イ 専門学科、進路指導部、学年、教科等が連携し、生徒の進路を保障する。	(1) ア・受講する生徒の授業満足度 85%以上を維持。[87.1%] ・自己診断（生徒）「授業（座学）は分かりやすく楽しい」の肯定率を前年度以上にする。[83.5%] イ 成績不振者等への考查前等での放課後補習を各学期で実施する。 (2) ア・授業アンケート「生徒取組1（予習・復習ができています）」の平均値 3.0 以上を維持する。[3.24] ・長期休業中等における進学希望者向け講習会を実施する。 イ 受験者数を今年度より 10%増やす。[合格者： 英検 13 名 漢検 8 名] (3) ア 基礎学力の伸長につなげるため、教育産業の基礎学力調査を有効に活用する。 ・自己診断（生徒）「学校は進路についての情報を良く知らせてくれる。」の肯定感 90%を維持 [肯定感 93%] (4) ア 昨年度までに構築された学校全体のキャリア教育計画を継続する。 イ 卒業時の進路決定において前年度の決定率を維持。 [就職内定率 100%、農業・食品関連就職者数 21 名、国公立を含めた大学の農業・食品関連学部等への進学者数 47 名]	(1) ア・受講する生徒の授業満足度 85%以上を維持できた。(85.1%) (○) ・自己診断（生徒）「授業（座学）は分かりやすく楽しい」の肯定率は前年度を下回った。(77.15%) (△) イ 普通科等で学期ごとに成績不振に対して講習等を実施することができた。(○) (2) ア・授業アンケート「生徒取組1（予習・復習ができています）」の平均値 3.0 以上を維持できた。(3.26) (◎) ・長期休業中等における進学希望者向け講習会を実施できた。 イ 受験者数を今年度より 10%増やすことができた。 (受験者： 英検 16 名 漢 41 名) (◎) (3) ア 基礎学力の伸長につなげるため、教育産業の基礎学力調査を有効に活用した。(○) ・自己診断（生徒）「学校は進路についての情報を良く知らせてくれる。」の肯定感 90%を維持できた。(91%) (○) (4) ア 昨年度までに構築された学校全体のキャリア教育計画を継続できた。(○) イ 卒業時の進路決定において前年度の決定率を維持することができた。 (就職内定率 100%、農業・食品関連就職者数 13 名 (13/27) 国公立(11 名)を含めた大学の農業・食品関連学部等への進学者数 37 名) (◎)
2 農業教育を基盤とした「地域創生ジェネラリストの	(1)SDGs を意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会参画意識を醸成する。	(1) ア 地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、各種コンテスト等に積極的に参加し、生徒の意欲を高める。 イ すべての資格の取得状況を把握することにより、アグリマイスターの認定につなげる。 ウ 地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。 *外部人材やオンライン等の活用も図る。	(1) ア・近畿ブロック代表としてプロジェクト発表で全国大会出場をめざす。[測量競技会（全国大会出場）,近畿大会出場プロジェクト発表Ⅰ類・Ⅲ類部門優秀賞、農業情報処理優秀賞] ・自己診断（生徒）「農業クラブへの意欲」肯定率 85%以上。[81.4%] イ アグリマイスター認定者 10 名以上を維持する。[11 名] ウ・農芸高校ブランドをめざし生産物の高付加価値化を図る。	(1) ア・近畿ブロック代表としてプロジェクト発表で全国大会出場をめざす。 (測量競技会（全国大会出場）,近畿大会出場プロジェクト発表Ⅰ類・Ⅲ類部門優秀賞) (○) ・自己診断（生徒）「農業クラブへの意欲」肯定率 85%以上。(80.7%) (△) イ アグリマイスター認定者 10 名以上を維持した。(11 名) (○) ウ・農芸高校ブランドをめざし生産物の高付加価値化を図ることができた。(○)

府立農芸高等学校

育成	(2)チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。	(2) ア 育成のための学習プログラムを実施し、評価を行う。	(2) ア・ポートフォリオやルーブリックを活用し、生徒の学びを可視化する。 ・評価方法を検証する。	(2) ア・ポートフォリオやルーブリックを活用し、生徒の学びを可視化し、評価を行ったが一部不十分な部分もあった。(△) ・評価方法を継続して検証する。(○)
3 規律・規範の確立と豊かな心の育成	(1)自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。 (2)職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。	(1) ア 遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻数を減少させる。 イ 問題行動における懲戒件数を減少させる。 (2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を充実し、一層理解を深めて指導力を高める。 イ 一人ひとりの生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。 ①人権意識を向上させ、体罰・セクハラなど、あらゆる差別を許さない教育の場とする。 ②いじめ等調査、生徒実態調査の実施結果を分析し、生徒指導全般に活用する。 ウ 教育相談体制の充実のため、教育相談委員会を設置し、生徒のいじめや虐待等の事象に適切に対応できるようにする。	(1) ア 遅刻総数前年度比 10%減をめざす。[2348 回] イ 懲戒件数前年度比 10%減をめざす [27 件 27 名] (2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修等を 3 回以上実施[4 回] イ①年間計画に基づく人権教育の実施及び人権教育講演会の実施。 ②いじめ等の把握と未然防止のため、府教育庁によるアンケート等を実施・活用し、実態把握に努める。 ウ・自己診断（生徒）「教育相談（カウンセリング）の体制が確立されている」の肯定率 80％以上を維持する。[83.6%] ・中退や不登校を未然防止し、前年度より退学者数を減少させる。[1.03%]	(1) ア 遅刻総数前年度比 12.7%増加した。次年度に向けて対策が必要である。(2648 回) (△) イ 懲戒件数前年度比 10%減を達成できた。要因として、遅刻による懲戒もあった。(21 件 23 名) (○) (2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修等を 3 回以上実施できた。校内研修（アレルギー、教育相談、食中毒など) (○) イ①年間計画に基づく人権教育の実施及び人権教育講演会の実施ができた。(○) (同和問題、拉致問題、情報関係などを実施) ②いじめ等の把握と未然防止のため、府教育庁によるアンケートを 3 回実施・活用し、実態把握に努めた。(○) ウ・自己診断（生徒）「教育相談（カウンセリング）の体制が確立されている」の肯定率 80%以上を維持する。(88.7%) (◎) ・中退や不登校を未然防止し、前年度より退学者数を減少させることができた。(0.17% 1 月時点) (◎)
4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上	(1)「授業アンケート」などを活用し、振り返ることによって授業研究・授業力向上を図る。 (2)臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。 (3)学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる	(1) ア 各教科で組織的な授業研究を進める。その際、「授業アンケート」結果、基礎学力の調査結果（教育産業）を活用する。(ICT の活用、AL の導入なども含む) イ 授業研究を推進するに際し、公開授業・相互の授業見学等も行う。 (2) ア 学習支援クラウドサービス、校内ネットワークや校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。 イ 毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各教員が意識して、働き方を見直す。 ウ 働き方改革を推進し、時間外労働を減らす取組みを行う。 (3) ア 本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。	(1) ア・教科及び個人で前期より後期の評価を上げる。[0.05 上昇] ・前年度程度の全体の平均値をめざす。[3.41] ・自己診断（生徒）「教え方に工夫がある」の肯定率 85%以上維持。[85.2%] イ 初任者は年 2 回以上の研究授業を実施。 (2) ア 資料データの共有化等による会議の効率化、省エネ化で時間短縮を図る。フォーム作成ツールを使った出欠管理の運営について効率化と指導の検証を行い改善する。 イ 長時間勤務者へのヒアリングとコーチングを管理職及び産業医が行う。定時退庁日、ノークラブデーの徹底と合同部活動の推進を図る。 ウ 農業科教員の働き方について時間と場所の枠を見直し、労働時間の昨年度比 10%減をめざす。[集計中 4 月以降] (3) ア・課題に応じ、教職員向け研修を年間 3 回程度実施。 ・学外施設等と交流し、課題解決につなげる。	(1) ア・教科及び個人で前期より後期の評価を上げることができなかった。(0.01 下降) (△) ・前年度程度の全体の平均値をめざす。(3.38) (△) ・自己診断（生徒）「教え方に工夫がある」の肯定率 85%以上維持。(85%) (○) イ 初任者は年 2 回以上の研究授業を実施することができた。(○) (2) ア 資料データの共有化等による会議の効率化、省エネ化で時間短縮を図る。フォーム作成ツールを使った出欠管理の運営について効率化を図ることができた。(○) イ 長時間勤務者へのヒアリングとコーチングを管理職及び産業医が行い。長時間労働者の時間外勤務を減少させることができた。ノークラブデーの徹底と合同部活動の推進を図ることができた。(○) ウ 農業科教員の働き方について時間と場所の枠を見直し、労働時間の昨年度比約 11% 減を達成することができた。(◎) (3) ア・課題に応じ、教職員向け研修（セクハラ・個人情報に関する研修・ICT 情報に関する研修、アレルギー対応、AED の研修、同和問題）などの 6 回の研修を実施した。(○) ・学外施設等と交流し、課題解決につなげる。

府立農芸高等学校

	組織を構築する。	イ リーディングGIGAハイスクールの研究指定校として、活用に向けた取り組みと情報発信を行う ウ 各分掌・委員会・学年・学科ごとの取組計画を踏まえ、課題の解決を進める。	イ 電子黒板など ICT の活用を推進その成果を情報発信する。 ウ 年度末に各組織の課題を明確化し、解決に向けた次年度の取組計画を作成するとともに、その課題を次年度の取組計画を学校運営協議会で示し、外部評価を行う。	イ LGH 事業等で電子黒板など ICT の活用を推進その成果を情報発信することができた。(○) ウ 年度末に各組織の課題を明確化し、解決に向けた次年度の取組計画を作成するとともに、その課題を次年度の取組計画を学校運営協議会で示し、外部評価を行った。(○)
5 地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信	(1)オール大阪の農業教育ネットワーク（行政（環境農林関連）、大学、企業、農家、農事法人、教委等）の活用を進める。 (2)府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。	(1) ア 学校資産を活用し、農業教育のセンター校として地域と交流し、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、緑化協力、イベント参加協力等を通して、生徒の自己有用感を育む。 (2) ア 中学校訪問、学校説明会や体験入学会を充実するとともに、HP 更新、報道提供等、積極的に広報活動を行う。 イ 11 月開催の農芸祭について、広報の充実と多数の来場者への安全性の向上、利便性等の改善を図る。 ウ 保護者に対して学校の教育内容を見てもらえる機会を増やす。	(1) ア・小・中学校等と交流し、複数回の見学受入れや講習会を実施する。 ・地域活性化のため地域のイベントに参加する。 ・正門周辺エリア（百年の丘、販売所）を有効活用し、府民に開放し、交流する。 ・自己診断（生徒）「地域交流の機会」の肯定率 80%以上。[77.2%] (2) ア・生徒が農芸高校の魅力と特性を伝えるべく中学校訪問を行う。 ・中学校の教員向け説明会等を実施 ・学校説明会等を昨年度並みに実施。 ・生徒の輝いている一瞬を広報すべく学校 HP 等を活用し、行事等での様子を紹介する。 ・マスコミ（新聞、テレビ等）からの取材依頼（複数回）をめざし、取組みを情報発信する。 イ 保護者の学校行事に関する満足度、農芸祭の来場者の満足度の向上をめざす。 [保護者の満足度 93.3%] ウ 3 学科の保護者向け研修会の実施	(1) ア・幼稚園・小・中学校等と交流し、複数回の見学・出前授業などを実施することができた。(○) ・地域活性化のため美原西の集いなど地域のイベントに参加した。(○) ・正門周辺エリア（百年の丘、販売所）を有効活用し、府民に開放し、交流した。(○) ・自己診断（生徒）「地域交流の機会」の肯定率 80%以上を達成した。(80.3%) (◎) (2) ア・生徒が農芸高校の魅力と特性を伝えるべく中学校訪問を実施した。(○) ・中学校の教員向け説明会等を 1 回実施 ・学校説明会等を 4 回実施した。(○) ・生徒の輝いている一瞬を広報すべく学校 HP 等を活用し、行事等での様子を紹介することができた。(○) ・TV 報道関係 2 回、新聞や農業関係雑誌など掲載できた。(6 回掲載 1 月時点) (◎) イ 保護者の学校行事に関する満足度、農芸祭の来場者の満足度の向上はできなかったが高い満足度は維持できた。 (保護者の満足 91.1%) (○) ウ 3 学科の保護者向けジャム作り、ミニ門松作り、ハム作りの研修会の 3 回を実施した。(○)
6 防災教育の充実と安全・安心な教育環境の確保	(1) 学校安全計画の見直しと実践的な避難訓練を実施する。	(1) ア 緊急事態への対処 学校安全計画などの緊急事態時の連絡方法や配備態勢について見直しを行い実効性のあるものとする。	(1) ア・緊急時を想定した連絡体制を検証するための訓練の実施 ・学校安全計画の見直し ・緊急避難訓練の実施（2 回）	(1) ア・緊急時を想定した連絡体制を検証するための訓練を実施した。(○) ・学校安全計画の見直しを図った。(○) ・緊急避難訓練を 2 回実施した。(○)